

平成13年度当初予算 基本事務事業目的評価表

【基本事務事業名】 公設試験研究機関新技術開発事業
【評価年月日】 平成12年11月14日
【担当部課名】 科学技術振興センター
【配入課名 課長名】 科学技術振興センター所長 福井 一晃

1 総合計画の政策体系上の位置づけ

政策 :安心を支える力強い農林水産業の振興 (- 1)

施策 :戦略的なプロジェクトの推進と新技術の開発 (4 1 3)

総合計画の目標項目 新品種の開発、新技術の開発

波及効果 副次的効果を及ぼすと考えられる施策 :

地域特性を活かした生産振興と安心で効率的な流通体制の確立
科学技術交流の推進

2 基本事務事業を巡る環境変化(過去、現状、将来)

・優良な遺伝形質を持った雌和牛を大量に増産させるための、割球核移植胚によるクローン子牛生産の成功例が増加しており、今後牛の改良増殖、飼養試験にその技術を利用することで研究の効率化や精密化が期待されている。(農業技術センター)

・木材価格の低迷、外材輸入の増大等の林産業の厳しい現状を改善するために、戦略的な新製品・新技術の開発と内装材等への利用拡大を図ることにより、林産業の活性化が期待されている。(林業技術センター)

・地域の活性化を図るためには、本県の特徴性を発揮する必要があるため、伊勢志摩、東紀州において真珠(予算は漁政課で措置)、クエ・マハタ等の生産技術開発に係る研究が一層期待されている。(水産技術センター)

3 基本事務事業の目的と成果

3-(1) 対象と意図(何をどういう状態にしたいのか)

(農業技術センター)

クローン牛

優良な同一遺伝形質を持った雌クローン和牛の効率的な生産技術の確立

(林業技術センター)

県産木材

戦略的な新製品・新技術による木材製品の開発

(水産技術センター)

クエ・マハタ

クエ・マハタ人工種苗を安定的に量産できる技術の開発

3-(2) 成果指標名・成果指標式(総合計画の目標項目には*を付す)

(農業技術センター)

核移植技術の開発率

$$\text{核移植技術の開発率} = \frac{\text{移植可能胚数}}{\text{融合卵子数}} \times 100$$

(林業技術センター)

技術開発率

$$\text{技術開発率} = \frac{\text{新技術等開発件数} + \text{特許等件数} + \text{前年度実績}}{\text{新技術研究・開発目標件数}} \times 100$$

(水産技術センター)

$$\text{技術確立進捗率} = \frac{\text{確立技術項目数}}{\text{確立予定技術項目数}} \times 100$$

変更した場合の成果指標名・成果指標式

3-(3) 設定した成果指標に関する説明 (指標動向に影響する要因、指標の有用性、設定の理由など)

試験研究業務は、適正な調査計画とその実施によって、技術開発が得られるものであり、技術確立進捗率を指標とした。

3-(4) 結果 (施策における2010年度の目標)

新技術・新品種・新製品の開発、実用化

4 基本事務事業の評価

4-(1) 前年度 (H11年度) における基本事務事業の結果評価

前年度に行った内容と成果

クローン牛生産、新技術木材製品の開発と特許出願（3件）、クエ・マハタの稚魚生産等、研究課題の解明と技術開発を推進した。

また、ウイルス病対策の一環として、オゾン海水殺菌装置を整備した。

前年度に残った課題

研究成果として開発した新技術等の実用化、民間への技術移転等を積極的に進展させる必要がある。

4-(2) 本年度 (H12年度) における基本事務事業の見込み評価

本年度行っている内容と本年度終了時に見込まれる成果

・クローン牛について、優良和牛から体細胞の採取を行い、この細胞を用いたクローン胚の作出と胚移植による受胎を目指す。

・県産材の新用途開発製品として、木材の炭化資材と他の資材との複合資材を開発し、特許出願2件を行う。

・クエの稚魚約3.5万尾の生産を行う。

本年度残ると思われる課題

- ・クローン胚の効率的な作出技術の確立
- ・研究成果として開発した木材新技術・新製品の実用化
- ・種苗生産時に発生するウイルス性疾病対策技術の確立。

5 基本事務事業の改革方向

「三重のくにつくり宣言」及び「三重県科学技術振興ビジョン」に示されている基本目標の達成に向けての研究を推進する。

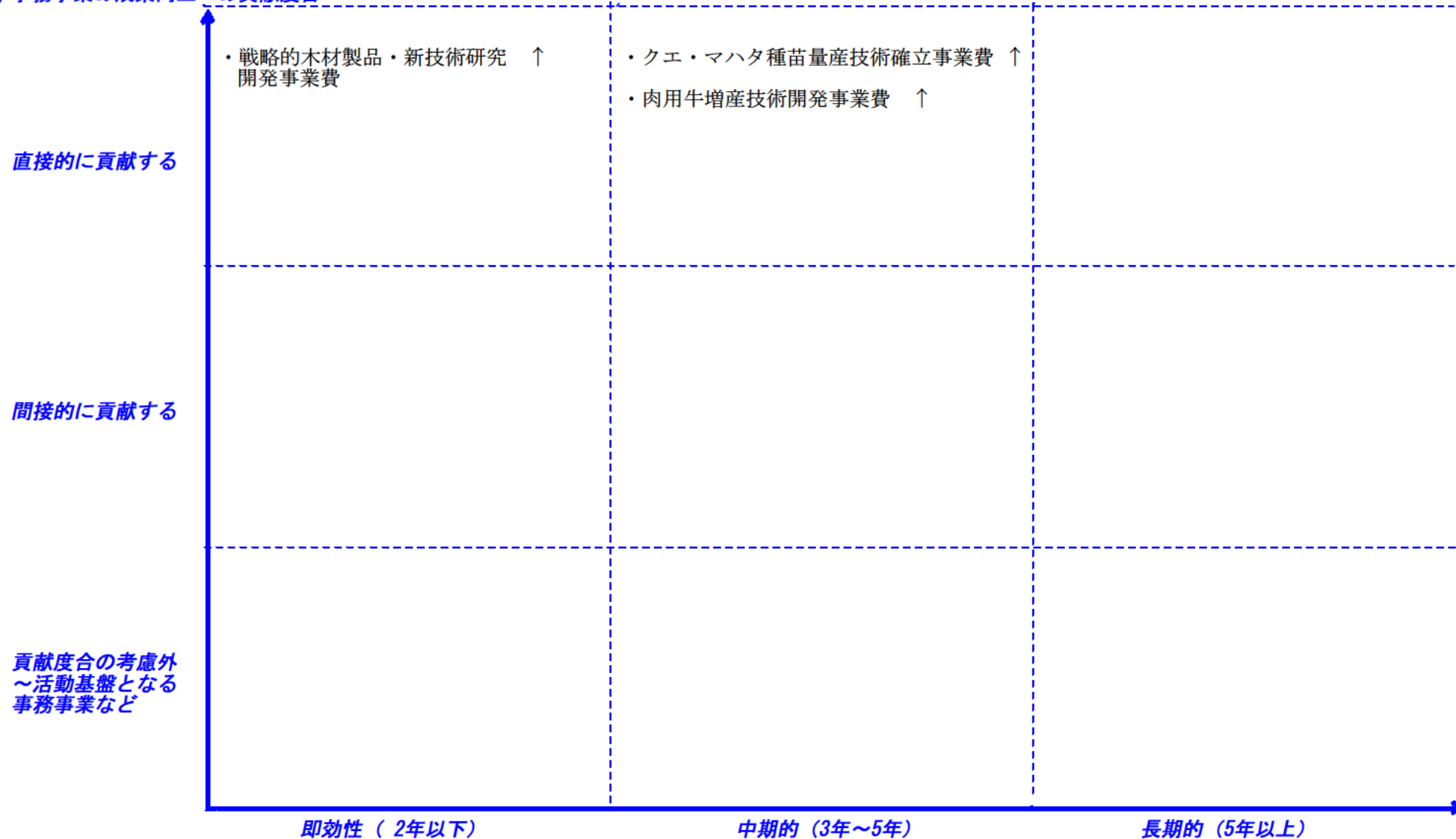
6 成果指標値及びコスト等の推移

	成果指標値		総合計画	予算額等(千円)	必要概算
	目標	実績	目標数値	所要時間(時間)	コスト(千円)
前々年度 (H10年度)					
前年度 (H11年度)	100	100	新技術の開発	112,370 8,950	149,513
本年度 (H12年度)	100	_____	"	18,921 9,497	58,335
本年度補正後 (H12年度)	100	_____	"	-	_____
翌年度 (H13年度)	100	_____	"	16,947 9,200	55,495
計画目標年次 (H22年度)	100	_____	"	_____	_____

7 翌年度(H1 2年度)の基本事務事業における事務事業戦略プランシート(PPM : Project Portfolio Matrix)

〈必要概算コスト： ☆5億円以上 ◎～1億円 ◇～5千万 △～1千万 ・1千万未満 *休止・廃止〉

基本事務事業の成果向上への貢献度合



※ 各事務事業名の右に付した矢印は、それぞれの事務事業に対する力の入れ具合である「注力」の変化の方向を表している。

8 基本事務事業を構成する事務事業の詳細
 新規事務事業には、事務事業名に(新)を付す

事務事業名 (担当課)	成果指標名	事務事業の概要	13年度 予算額 (千円)	予算額 前年度比 (±千円)	13年度 所要時間 (時間)	所要時間 前年度比 (±時間)
肉用牛増産技術開発事業費 (農業技術センター)	核移植技術の開発度	優良和牛の核を未受精卵に移殖して、優良な性質を持った同一の雌和牛(クローン牛)を大量に生産する技術を開発する	2,057	784	1,940	67
戦略的木材製品・新技術開発事業費 (林業技術センター)	技術開発度	県産材の柱材から内装材等への利用拡大及び低価格提供を目的とした戦略的な木材製品の開発に関する研究を行う。	5,350	130	4,260	230
クエ・マハタ種苗量産技術確立事業費	技術確立進捗率	東紀州地域活性化の一環として、高級魚であるクエ・マハタの種苗生産技術を確立する	9,540	1,060	3,000	0